

あなたが活きる そして、響きあう社会へ

〈一般版〉



ファシリテーション活用支援プログラム 2009年度 実施報告

目次

はじめに	1
ファシリテーション活用支援プログラムの紹介	1
■プログラムを活用したく主催団体：事業名>の紹介	
横浜市：イマジン・ヨコハマ出張ワークショップ（神奈川県）	3
法政大学：キャリア相談事前指導・ファシリテーション授業講師派遣（東京都）	5
江戸川大学・流山市：コミュニティリーダー育成研修（千葉県）	7
神戸市：神戸市UD（ユニバーサルデザイン）学習会（兵庫県）	9
広島県看護協会：ファシリテーション研修（広島県）	11
国立病院機構沼田病院：ファシリテーション研修（群馬県）	13
アカデミー文京：文京区文京アカデミー公開講座 「組織が変わる！ファシリテーション入門」（東京都）	15
東京工業大学・神奈川県自治総合研究センター ：討議型意識調査（デリバレイティブ・ポール：DP）（神奈川県）	17
慶応大学・神奈川県藤沢市 ：討議型意識調査（デリバレイティブ・ポール：DP）（神奈川県）	19
千葉市教育振興財団 千葉市生涯学習センター ：地域活動スタートアップ講座（千葉県）	21
川崎市社会福祉協議会：ケアマネジメントリーダー事業名簿登録者向け研修 「ファシリテーションとリーダーシップ」（神奈川県）	23

はじめに

「ファシリテーションを学び、育て、活かせる場を日々耕し、多様な人や組織がつながっている」・・・。
2009年度の「ファシリテーション活用支援プログラム」の現場では、まさにこれが実践されていました。応募があり認定された案件に対して、ファシリテーターたちが立ち向ってくれたのです。そのおかげで様々な成果や気づきが生まれました。本報告は、これからも多様な組織とつながり響きあう社会を創り出すために、多くの方にこのプログラムを知って活用していただくために作成しました。ぜひご一読ください。

「ファシリテーション活用支援プログラム」の紹介

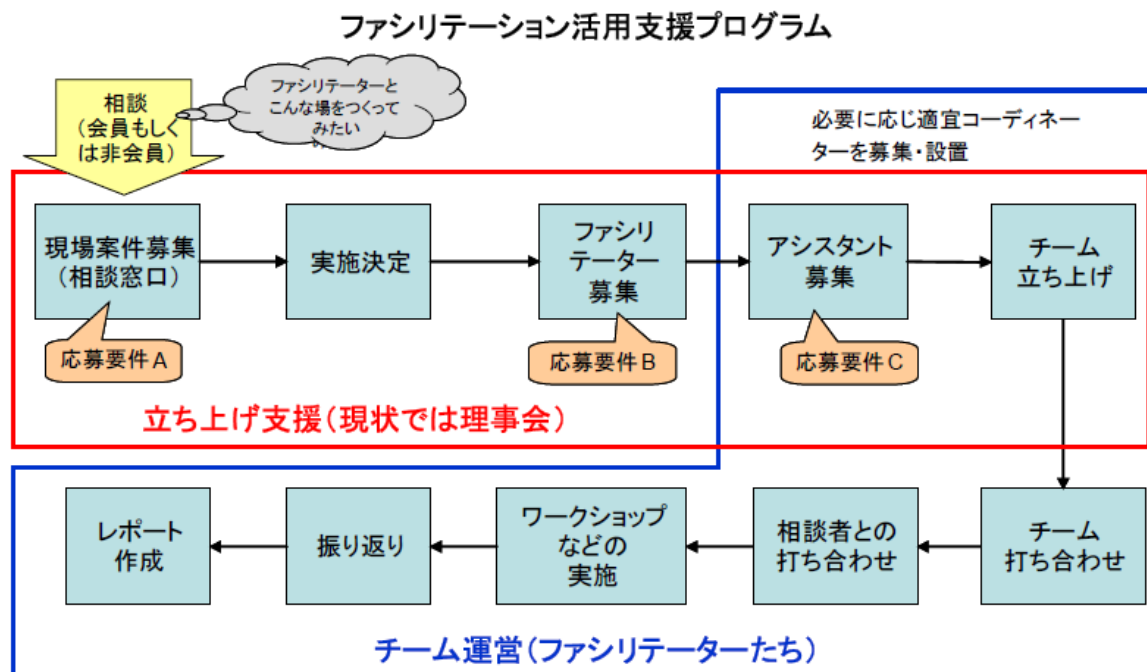
【事業の経緯】

FAJ では、発足以来、「講師・ファシリテーター紹介事業」を実施してきましたが、ファシリテーションが一定程度普及し、研修などのサービスを提供する企業が増えたことにより、NPO 法人としての役割と目標をほぼ達成したと判断し、2007 年度をもって当該事業を終了しました。

しかし、企業によるサービスは増加しましたが、非営利組織や地域コミュニティなど、必要性はあるものの、資金面の制約からそれらのサービスを受けられない組織や団体が多く存在することは事実です。

また、FAJ としては、より多くの会員に広くファシリテーションを実践する機会を提供することが課題となっています。そこで、2008 年度からは、「公共性」「非営利性」「公開性」などの要件を満たすワークショップ・研修などの依頼に対し、会員からファシリテーター（講師）・コーディネーター・アシスタントなどを公募し、チームとして対応する「現場紹介事業（ファシリテーション活用支援プログラム）」をスタートしました。そして、2009 年7 月の理事会では、事業の名称を「ファシリテーション活用支援プログラム」に統一し、これまで用いていた「現場紹介事業」という名称は、今後は使用しないことを決定しました。この措置は、名称による混乱を避け、NPO のミッションとしての「社会に対して発信する事業」という視点を強調するためのものです。

【事業の概要】



1. プログラムの認定

協会の内外より、ファシリテーションに関する講演・研修、ワークショップの企画・運営、ファシリテーターの派遣などの依頼があった場合、理事会においてプログラムに認定するか否かの審議を行います。判断の基準は、次の通りです。

- (1) 公共性のある事業であること。
- (2) 非営利の事業であること：営利目的の事業や参加費を徴収する事業でないこと（ただし、公益目的や地域活動等の事業で、徴収する参加費が実費範囲であることが確認できる場合は可）。
- (3) ファシリテーションの適用に意味があること：市民の声を聴いたというアリバイづくりや単なる思いつきでないこと。
- (4) ファシリテーションの付加価値を正当に評価していること：プログラムデザインが必要な場合、それに見合ったフィーの想定がなされていること。
- (5) 公開性が担保されていること：コーディネーター、アシスタント、見学者等の同席が可能であること、および協会のニューズレター等でのワークショップ等の紹介が可能であること。
- (6) 実施までに3～4ヶ月の時間的余裕があること：企画、調整、実施、評価という一連の流れすべてを、結成したチームと依頼主との二人三脚で歩む点に理解があること。
- (7) チームとしての派遣依頼であること。

2. プログラムの遂行メンバー

認定されたプログラムは、次のメンバーによって遂行されることになります。ただし、メンバーの公募対象やその組み合わせは、依頼者からの諸条件や現場の状況によって変化します。

- (1) 担当理事：チーム結成までの依頼主との折衝、講師またはファシリテーター（以下「ファシリテーター」）の公募等を行う。
- (2) ファシリテーター：リーダーまたはコーディネーター（以下「コーディネーター」）およびアシスタントの公募、研修またはワークショップ等（以下「ワークショップ等」）の企画運営等を行う。
- (3) コーディネーター：チーム結成後の依頼主との折衝、プログラムのマネジメント等を行う。プログラム遂行に当たっては、必ずコーディネーターを設置しなければならず、公募を行わない場合は、ファシリテーターがコーディネーターを兼務する。
- (4) アシスタント：ワークショップ等におけるテーブルファシリテーター等、プログラム遂行のアシスタントを行う。

3. プログラム遂行の手順

認定されたプログラムは、以下の手順で遂行されることになります。

- (1) 理事会による担当理事の選定。
- (2) 担当理事によるファシリテーターの公募（応募多数の場合は、担当理事が選考を行う）。
- (3) ファシリテーターによるコーディネーターおよびアシスタントの公募（応募多数の場合は、担当理事およびファシリテーターが選考を行う）。
- (4) ファシリテーター、コーディネーターおよびアシスタントによるチームの結成。
- (5) チームによるワークショップ等の実施。

□主催：神奈川県横浜市

□事業名：イマジン・ヨコハマ 出張ワークショップ

□参加者数：220 名（実施 10 回合計参加数）

□プログラムを担当した F A J 会員

コーディネーター：山ロー郎（東京支部）／ファシリテーター：飯田正男、大嶋友秀、川端邦久、佐々木耕一、西岡能範、増田みつ枝、森川真樹、山ロー郎、和田裕作（東京支部）／アシスタント：無／見学者：無／プログラム担当理事：鈴木まり子

□ファッションを活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

市民アイデンティティーの収集に市民がファシリテーターを行うという発想をした時、ワークショップの開催に慣れていない参加者がいることが想定されたため、そのサポートを行っていただけないかと思いました。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：

横浜市は 365 万人を超える巨大都市へと成長を遂げました。150 周年を迎え、市内各所で市民参加の息吹が高まってきている中で、市民参加型都市ブランド共創事業が実施されました。

②ねらい：

市民が一体となり、横浜への誇りや愛着心を高めることにより、地域活動への参加を促進し、自律的なコミュニティ生成の基盤となります。都市ブランドを構築し、横浜の魅力を効果的に発信することにより、人や企業を惹きつけ、地域を活性化させるちからとなることを狙いました。

③成果イメージ：

地域、年齢、職業、国籍にとらわれず「横浜」の「都市ブランド」をどう考えるか活発な議論が行われる場が多数起こることや、未来に向けた横浜のイメージを、シンプルなメッセージやマークで表現し発信していくことにより、今後の都市ブランド展開の方向性を示すものとします。

④成果（終了後）：

ワールドカフェを中心とする参加型ワークショップを多数実施し、多くの 90 万件近くの市民アイデンティティーを収集。そのデータをもとに、「ブランドステートメント」「シンボルマーク」などの製作を実施しました。またこのデータが今後の都市政策に活かされていく予定となっております。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：場所・実施日時 2009 年 6 月 4 日～8 月 26 日（13 回）

*イマジン・ヨコハマみなとみらいオフィス（スポーツ愛好家 第 1 回目のワールドカフェ）

*ヨコハマクリエイティブシティセンター（クリエイティブ思考のある方々の集会）

*中区区役所会議（区役所職員の「横浜を考える」会をフォロー）

*神奈川県立金沢総合高校 1 年 8 組教室（高校生にもワールドカフェを限られた時間内で実施）

*横浜みなとみらいホール（音楽愛好家に 横浜 を問いかけた。コンサート会場を活用した）

*マリノスカフェ（サッカーのサポーターを中心に「横浜とスポーツ」の今後を考える会）

*横浜市男女共同参画センター横浜南（ボランティア活動をされている方々の集い）

*大沸次郎記念館（気象予報士の呼びかけで集まった。会合の場所もユニークであった）

＊笹野台小学校（小学生にも横浜を考えてもらう キッズクラブでのワールドカフェ）

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：イマジン・ヨコハマ事務局 松野智義仁氏

プロセスの過程でもっとも困難と予測された「出張ワークショップ」において、FAJの皆さまのサポートもあり、日ごろワークショップ実施に不慣れな方々も積極的な活動がなされ結果 25 回のワークショップを実施することができました。ありがとうございました

☆FAJ 会員：＜プログラムを担当したFAJ 会員からのメッセージ＞

所感：大嶋友秀

私が関与したのは、“rhapsody in YOKOHAMA ワークショップ@横浜みなとみらいホール”。横浜 1 ドルオルガンコンサートの後、ホールのロビーでワールドカフェを実施、音楽の視点から横浜の未来を語り合うワークショップだった。

実際の現場は定例会とは違い厳しいこともあった。コンサートの後、ロビーへ出てくる人に声をかけるがほとんど素通りで帰る。にぎやかだった会場の余韻が引き閑散とする。残された私たちを訪れてくれた市民を歓迎したときの想い。お母さんがお子さんと一緒に参加してくれたときの喜び。一緒にワークショップをしている人たちが応援に来たときの感謝。2 回のワークショップは少人数の参加にとどまった。しかし、そこには、横浜と音楽と明日の社会への熱い思いの市民がいた。

現場を経験して、私も継続して何かを発したくなった。昨年 9 月より、月 1 回で読書会をワールドカフェでやり始めた。私の中では、こんな形で、“rhapsody in YOKOHAMA”が継続しているのだ。

所感：飯田正男

横浜市在住 40 数年の市民として、開港 150 周年記念事業を盛大に行うことに関心がなかったところ、FAJ からファシリテーション活用支援プログラム「イマジン・ヨコハマ出張ワークショップ」の案内が届き、すぐに反応して応募しました。その理由は、次の様なことです。

- ・ファシリテーションの現場を経験する良い機会が地元にあったこと。
- ・今まで接点がなかった市民活動の人びとと知り合えること。
- ・ワールドカフェが豊かな発想を生むコミュニケーションの場となるだろうこと。

これらのことを踏まえて、メンバーの皆さんと活動が始まりました。2009 年 6・7・8 月の 3 ヶ月間、4 か所のワークショップに加わり、市民やボランティアの方々とヨコハマの未来について一緒に語り合い、様々なバックグラウンドで市民活動が盛んに行われていることに気づかされました。リーダーやメンバーの志が相まって活動を継続する上で、ファシリテーションが生かされる現場が縦横無尽にあることを、あらためて認識したのです。その後、私自身も地方都市で、市民向けの語り場としてワールドカフェを立ち上げ、コミュニティとして育つべく奮闘するに到っています。

所感：山口一郎

横浜市の「今とこれから」をそれぞれの立場考える集会へのFAJメンバーとしてのサポートは楽しかった。ワールドカフェ形式でのワークは会場ごとに雰囲気も盛り上がりも異なっていた。クリエイティブティビティーをテーマにした集会は横浜アートの中心となるYCCで行われ、サッカーチームのサポーターが中心になったスポーツ愛好家の集会はマリノスタウンで行われ盛り上がった。開催に至らなかったチームにもサポートで入ったが市民それぞれの意見を聞いたプロセスは、それだけでも刺激的であった。

□主催：法政大学キャリアデザイン学部

□事業名：「キャリア相談事前指導・ファシリテーション授業講師派遣」

□参加者数：のべ約 330 名（1 クラス平均 20.6 人×2 回×8 クラス）

□プログラムを担当した F A J 会員

コーディネーター：池田和秀（東京支部）／ファシリテーター：浦山絵里、太田哲二、古俣升雄、椎名純代、趙淑伊、山口一郎、森川真樹、長橋良智（以上東京支部）／アシスタント：無／見学者：無／プログラム担当理事：鈴木まり子

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

法政大学キャリアデザイン学部では、1、2 年生対象の「キャリア相談事前指導」で、キャリア相談をする上で必要なスキルを教えています。その中に置いた「ファシリテーション」の授業への講師派遣が FAJ に依頼されました。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：「キャリア相談実習」において、学生は、さまざまな現場に出かけ他者を援助する経験をします。そのため「キャリア相談事前指導」では、人とのかかわる力（ソーシャルネットワーキング・スキル）を強化することに軸を置き、人を援助する際の基本的なスキルとプランニングの方法を学びます。そのための技法の一つとして、傾聴、アサーションと並んでファシリテーションを位置付けています。

②ねらい：「話し合いを体験しながら、話し合いの進め方（ファシリテーション）を学ぶ」ことを目的とし、体験＋講義で授業を構成しました。具体的には、「お互いの意見を自由に語れる場づくりをする」、「活発に意見を出し合う」、「合意形成する」ことを体験するプログラムです。

③成果イメージ：参加者が「話し合いにも技法がある」ことを知り、今後の学生生活や実習活動の中でファシリテーション・スキルを活用していこうとの意識を持てるようにすることをめざしました。

④成果（終了後）：大学の担当者からは、学生たちが上級生になった後に、大学での印象的な授業としてこのファシリテーションの授業を挙げていること、さまざまなミーティングの中で話し合いの技法を意識している様子が見られることなどが報告されています。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2009 年 6 月 4 日・9 日・10 日・11 日・16 日・17 日（左記の日程で 8 クラスを対象に 90 分の授業を 2 回）

第 1 回：「グループで話し合って計画を考えよう」／ブレインストーミングでアイデアを出し合う

第 2 回：「グループで話し合って計画をまとめよう」／コンセンサス法で合意形成をする

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：学生にとっては外部講師による授業であることから、良い意味での緊張感があり、積極的な参加姿勢が見られたようです。また主催者側には、各講師が、各分野の第一線で活動している社会人として学生のキャリアモデルとなることへの期待もあり、それに応えることもできました。

☆F A J 会員：同一の授業内容で学んできた学生に対し、各クラス同一のプログラムを提供するという現場でしたが、クラスによって雰囲気も学生の反応も様々でした。したがって、各 F A J 派遣講師には、現場に即応した対応力が求められました。対面とメールとで事前の打ち合わせを密にしましたし、授業終了後には各講師の経験を交流する時間を持ち、お互いの実践に学びながら取り組むことができました。

＜プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ＞

FAJ会員が大学の講師になりました！

私たちが担当したのは、全14回の授業「キャリア相談事前指導」の第8回と第9回でした。ここまでに傾聴（聴き方）とアサーション（自分の意見を言う）の実習を重ねてきた学生たちに、ファシリテーションを体験してもらう授業です。90分授業×2回のプログラムはこんな内容でした。

第1回目：グループで話し合って計画を考えよう

- (1) ＜レクチャー1＞ファシリテーションとは？
 - * 話し合いの中で「共有、拡散、収束、共有」のプロセスに注目する
- (2) ＜体験＞ブレインストーミングで「拡散」を体験
 - * テーマ1：「夏休みにしたいこと」
 - ・自由に意見を出し合いについてアイディアの数をグループ間で競い合う
 - * テーマ2：「キャリア相談実習でしたいこと」
 - ・ファシリテーター役を立て、グループでアイディアを出し合う
- (3) ＜レクチャー2＞ファシリテーターがやること
 - * 場づくり、プログラムづくり、話し合いの進行などのポイントを解説

第2回目：グループで話し合って計画をまとめよう

- (1) ＜体験1＞コンセンサス法で「収束」を体験
 - * テーマ：前回授業で出し合った「キャリア相談実習でしたいこと」のアイディアの中からグループで合意できるもの1つを選んで、行動計画にまとめる
 - ・ファシリテーター、グラフィッカー、観察者役を立てて話し合いを進める
- (2) ＜体験2＞グループで自分たちの話し合いをふりかえる
- (3) ＜体験3＞まとめた計画とふり返りで気づいたことを発表し、クラス全体で共有する
- (4) ＜レクチャー＞話し合いのまとめ方のポイントを解説
- (5) ＜ふりかえり＞クラス全体で2回の授業をふり返る

講師をつとめたFAJ会員の感想をいくつか紹介しましょう。

- ファシリテーションの講師として生徒さんの前に立ったのは初めてで、新鮮でした。自分自身のファシリテーションに対する考え方を整理する機会にもなりました。学生さんたちはとても活発に参加して、楽しんでくれていたようで良かったです。1回目が終わった時は、楽しんでいるのはなんとなく雰囲気でもわかったのですが、どのような学びや気づきがあったかはわからなかったのが、不安もありましたが、2回目の最後の振り返りの時間でコメントを求めるとそれぞれ気づきを伝えてくれたのでほっとしました。貴重な機会をいただきありがとうございます。
- 私の場合、すでに社内における関係性が出来上がった上で、やりとりをすることが多いので、今回のように、利害関係のない学生の方に対峙する経験は、初心に戻る、基本に忠実であることの大切さを実感することができました。講師をされた方の意見やちょっとした工夫を共有できたことがよかった。
- 学生を前にしてファシリテーションを行う機会は普段それほどないので、FAJとして大学への講師派遣は会員にとっても、学生にとっても、大学・教育関係者にとっても貴重な機会である。他大学も含め、増やしていければ個人的には良いと思う。

□共催：江戸川大学・流山市役所

□事業名：公開講座「コミュニティリーダー育成研修」

□参加者数：30名×6回

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：梅谷秀治（東京支部）／ファシリテーター：佐藤成臣（東京支部）／アシスタント：浅羽雄介、蟻川純子、大川喜教、中田展代、野島勇、渡辺裕（以上東京支部）／見学者：無／プログラム担当理事：徳田太郎

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

流山市のコミュニティ審議会にFAJ会員が委員として参加しており、ファシリテーション及び日本ファシリテーション協会が紹介され、さらにファシ活の活用についておすすめるがあったから。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：流山市では地方分権の流れの中で地域コミュニティの再構築が重要課題と位置づけられ、市民参加・協働の実現にはファシリテーションが役立つとの認識が拡がりつつあった。

②ねらい：コミュニティリーダーにファシリテーションのスキル&マインドを習得していただき地域の様々な場を活性化させ、ひいてはコミュニティの活性化に繋げる。

③成果イメージ：参加者がファシリテーションを理解し、コミュニティのいろんな場で活用を図るようになる。

④成果（終了後）：参加した市民から「楽しかった」「このやり方はいいね」の声が聞かれ、またシニアの参加者の口から淀みなく「ファシリテーション」の言葉が出るようになった。

また各チームに参加した市役所職員からも多くの学びが得たとの報告があった。

□形式： ●ワークショップ ●研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2009年9月～12月（6回）

第1回 9月26日 「変わる行政と市民の関係」

第2回 10月10日 「話し合いの技術を学ぶ」

第3回 10月17日 「地域の課題を話し合おう」

第4回 11月07日 「地域コミュニティと市民の役割」

第5回 11月21日 「課題解決の道を探る」

第6回 12月05日 「プレゼンテーション&ディスカッション」

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：参加した市民が生き生きとして前向きに取り組む姿が素晴らしい。また全員が発言、参加し和気あいあい楽しそう。（市役所） 地元市民や流山市役所にいい場の提供が出来、ありがたい。（江戸川大学）

☆FAJ会員：

ファシリテーション体験だけでなく、ファシリテーターとしてのマインドやあり方も学べた。

事前打合せ、直前準備、進行、フィードバックなどプロセスも楽しく経験できた。

楽しかった。参加者からも学びを得た。

まちづくりについても多くの学びがあり、たいへん参考になった。

みんなでまちのプランをつくりました

第1回目：参加者の感想

記念すべき第1回目、参加者もスタッフも期待と緊張の面持ちでスタート。まずは、そんな“氷”状態を『30秒自己紹介』でアイスブレイク。お互いを知り合うと同時にタイムトライアル要素のある仕掛けで各テーブルは和みました。やっぱりアイスブレイクって大切。その後は各テーブルで『こんな街に住んでみたい!』をテーマに付箋を使っての発散ステージ。参加者からは“このやり方は町内会でも使える!”という声もありましたが、私のテーブルは他に比べて進み具合が遅く、改めてファシリテーターの重要性を認識しました。(浅羽雄介)

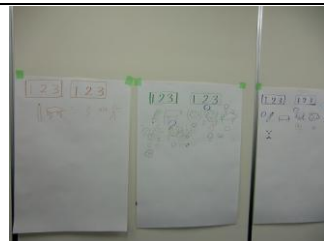


第2回目：参加者の感想

第2回は傾聴の大切さを感じるワークから始まりました。当初は自分の思いを話すことばかりに熱心だった方も、聴くことの難しさや聴いてもらえることの嬉しさなど、様々な気づきがあったようです。その後、各参加者の方が交替でファシリテーターとなり、第1回の内容を深めていきました。私はファシリテーター役の方が迷っている時にうまくサポートできず、場が凍るといって、かなりほろ苦体験をしてしまいましたが、こうした経験は自分にとって大きな学びになりました。これもこうした場があったこと&Co、MF、TFの皆さんのおかげです。失敗しても大丈夫という安心感がありました。感謝しています。(中田展代)

第3回目：参加者の感想

2回目から1週間しか間がなく、記憶が新しいところでのワーク。前回発散した内容をフレームワークを使って纏めていく段階です。初めて使う人が多く、初めのうちは戸惑いもありましたが、積極的な参加者の中からファシリテーター役を買って出てきた人もいて成長を実感できました。私の班には外国出身の人もいて、新たな視点もあり、アウトプットは想定外のものになりました。(大川喜教)



第4回目：参加者の感想

ファシリテーション・グラフィックの基礎練習。実際に描いてみると多種多様。人によって違ってきます。描くことを恥ずかしがる方もいましたが、照れながらも楽しそうにやっていたのが印象的です。その後は今までの成果を発表。みなさん発表を食い入るようにきいていて、場に一体感があつたように思います。どれもこれも想いがこもっていて、発表に力強さを感じました。そんな場に居合わせることができて幸せでした。みんな違っていいんだな、そんな風に思えました。(野島勇)

第5回目：参加者の感想

参加者全員が話し合いをしながら、自分の役割を決めて、発表に向けて、自発的に全色のブロッカーを使い、ファシリテーション・グラフィックをしていた姿を見て感激。又、プレゼンに向けてキーワードを考える参加者、写真やイラストを持参し、模造紙に張っている参加者。全員が自然の形でファシリテーションの力を身につけ、成長してきたと実感しました。「自分の出来ることをすれば良いのですね」という参加者の声が印象的でした。(蟻川純子)



第6回目：参加者の感想

最後は参加者の方によるプレゼンテーション。積極的に、そして実に上手くまとめと解説をされました。6回でここまで上手くなるのか、その効果に驚くとともに真剣に受講された方々の熱心さには頭がさがりました。自分自身も流山に関心を持ち、時間を作って一人で流山を訪ね、撮った写真をワークで活用しました。改めて今回のプログラムを通じてファシリテーションの醍醐味を知りました。(渡辺裕)

佐藤 成臣 / まちづくりの現場は何度体験しても発見があり、感動があります。スタート時にはやはり聞きなれない言葉や進行にとまどったりする姿もあったのですが、回を重ねるにつけ自らペンを取るやファシリテーターを受けるなど自分のものへと変る瞬間をまた見せていただきました。同時に一緒にファシ活をやった仲間とコーディネーター、相互に刺激しあえチームワークも抜群でした。

□主催：兵庫県神戸市（保健福祉局、須磨区）

□事業名：神戸市UD（ユニバーサルデザイン）学習会

□参加者数：竜が台地区 32 名 高倉台地区 69 名 篠原地区 107 名

□プログラムを担当したF A J会員

コーディネーター：山上寛之（関西支部）／ファシリテーター：和田 光平、雑賀梨恵、薮田雪子、宇田川真之、岡田純子、森田充彦、山上寛之、河田茂樹、森野和子、喜田菜穂子（以上関西支部）／アシスタント：無／見学者：無／プログラム担当理事：加藤彰

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

ユニバーサルデザイン（以下、UD：みんなにやさしいという意味）の視点で、今後につなげていくヒントをワークショップから得たいという考えです。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：神戸では、市民で構成する、ふれあいのまちづくり協議会を中心に地域住民を対象に子育てや防犯などさまざまな地域福祉交流活動が行われています。しかしながら、共通して核となるメンバーの高齢化、後継者不足、活動内容のマンネリ化に直面しているのが現状です。また、地域には多様な課題が山積しておりUDの視点が求められています。

②ねらい：UDが地域活動の中にたくさんあることに気づくこと、地域の魅力を再発見し、地域を好きになる。地域の現状を踏まえながら、より多くの人々が参画し、今後の活動の方向性を考える。

③成果イメージ：参加者が個人としてできること、団体としてできることの両面から地域活動でUDを意識しながら一歩踏み出し、実践をしていく。

④成果（終了後）：より多くの人々が地域活動に参画してもらうイベントを開催。ワークショップで気づいた課題解決のヒントを踏まえながら、活動を進めています。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2009 年 9 月～2010 年 2 月

竜が台地区：10/26（月）11/6（金）：2 回/ マップづくり、UD 劇

高倉台地区：9/29（火）11/10（火）12/15（火）：3 回/ UD レクチャー、地域でうれしかったこと、身の回りの UD を見つける、一年後のありたい姿のスローガンをつくる

篠原地区：10/2（金）10/20（火）11/20（金）12/18（金）1/22（金）2/26（金）：計 6 回 / マップづくり、身の回りの UD を考える、一年後のありたい姿は？ 活動を広げていくために

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：F A J の皆さまには、大変お世話になりありがとうございました。お互い顔見知りだけでも、ワークショップははじめてという地域の方ばかりでしたが、F A J の皆様のおかげで、楽しく、今後の希望も描きながら話し合いを進めることができました。またワークショップをもっと地域にとりいれたいという地域もでてきております。いずれの地域もワークショップを機会に活動は継続しており、ファシリテーションの効果がでております。

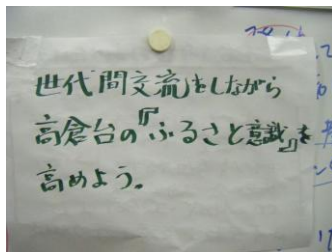
☆F A J 会員：昨年度の事例を生かしつつ、各地域ならではの UD によるまちづくりを支援できたように思います。特に学習会実施前には必ずミーティングを実施し、メンバーの創意工夫によるプログラムデザインを完成させ本番に臨んだことはメンバー間のチーム意識や達成感の充実につながりました。

＜プログラムを担当したF A J会員からのメッセージ＞（敬称略）

- ★和田光平・・・普段の定例会では得られない実践の宝庫というか、素晴らしい機会だった。UD 学習会は、地域住民の方々と、住みよいまちづくりビジョンを求めて行くワークショップだけではなく、時には寸劇に参加したり、チラシを作ったりとバリエーションも豊富だった。
- ★雑賀梨恵・・・UD学習会という現場を持つことで、ファシリテーター関連の本を読んでも、F A J の定例会に出席しても、以前とは違う姿勢で向き合うことができた。なにより、勉強したことを試せるチャンスがあることで、学習効率が良くなることを実感できた。
- ★藪田雪子・・・F A J と地元の人たちだけではなく、役所の人、UDサポートの人たちみんなで連絡調整や話し合いをもっとしなければならなかったということ。自分の立場からしか見えていなかったことに気付き、とても反省した場面がたくさんあった。F A J としての力は、みんなとの協力があって初めてつくということに気がついた。
- ★森田充彦・・・UDについては、理解が難しかった。そこで、UDの理解不足を感じ、UDの本を読んだり、講座に参加したりした。自分の世界が広がるきっかけが作れたのも、一つの成果だった。これからもこういう機会があれば、時間の許す限りは、参加したいと思う。
- ★岡田純子・・・参加者は、みなさん 60 代以降のご年配の方でした。その方たちに相手に持てる力を発揮していただけるのは、どんな場なのか…プロジェクトのみなさんと、一緒に「あーでもない、こーでもない」と頭をひねったことは、本当に貴重な体験です。毎回、参加者のみなさんの胸をお借りし、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ★森野和子・・・昨年度に引き続きの参加。やっぱり自分は、こんな現場のお手伝いをすることが楽しみであり、好きなんだ～♪と実感。ほぼ全回近く参加でき、プログラムデザインにも貢献できた。その土地の方々は熱心!! 第三者として関わることで、ホントのカダイやモンダイが見えてきた。それらを今後どうカイケツしていくのか?! 私たちの関わりが、何かのきっかけになれば幸いです。
- ★山上寛之・・・私は全体ファシリテーションをリードすることを経験した。ワークショップの全体進行を通じて“いかにして場をつくるか”がつねに考えたことだった。神戸市や UD サポーターとの調整、メンバー参加の調整、プログラム進行の調整、においてファシリテーター型リーダーシップの体験となりファシリテーションの場数をふめたことは他では経験できないことだった。



■高倉台地区（09.11.10）
UD サポーターからの
コメント



■高倉台地区（09.12.15）
UD スローガンはこれに
決定！！



■篠原地区（09.10.20）
篠原のいいところビッグマ
ップ完成。
それをふりかえって・・・

□主催：広島県看護協会

□事業名：「ファシリテーション研修」

□参加者数：94名（47名×2回）

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター&ファシリテーター：野口和裕／アシスタント：小林豊・谷川ひとみ・堀口康朗・山内圭子・吉田奈緒美（以上広島スクエア）／見学者：無／プログラム担当理事：徳田太郎

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

会議をうまく進めていくためのスキルということでファシリテーションスキルに白羽の矢がたちました。協会にお願いをした経緯は、インターネットでいろいろと検索をしましたが、HPの活動の紹介等を見て、研修講師の人材もいらっしゃるのではないかと連絡をしました。最初は看護職の方でどなたかと考えていたのですが、なかなか見つけることができなかったのも、ひとつの理由です。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：管理職やチーム医療として、今後の計画をするための会議を円滑に行う必要があります。なかでも看護師は患者さんを1番知っており、患者さん中心の医療を行うためにリーダーシップをとる必要があります。またカンファレンスにおいて、方向性など今後の運営をどうするのかをまとめるためにも話し合いの技術は必要となってきます。

②ねらい：医療現場において、看護職が専門性を発揮し、参画し、他職種と主体的に関わることが求められている。そのために、物事を円滑に推進する能力であるファシリテーションスキルを高める研修会を企画したい。

③成果イメージ：みんなが自由に話せて、想っている事を共有できる環境をつくる。また長期的な部分では、看護師だけの会議だけでなく、ドクターとの会議もその様にしていきたい。

④成果（終了後）：終了後の研修に参加した方のコメントとして「看護協会の勉強会に参加してた者です（＾＾）。自分を変えるきっかけになりそうです。ありがとうございました。」すぐに自由な場を作ることはいかなるかもしれませんが、いくつかのヒントを持ち帰っていただけたのではと思っています。

□形式： ○ワークショップ ●研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2009年10月1日・2日（2回）

医療に関係があるような演習テーマで、講師・アシスタントがリレー形式でファシリテートしました。

1. ファシリテーションとは 担当 小林豊
2. 場のデザインのスキル 担当 野口和裕
3. 対人関係のスキル 担当 堀口康朗・谷川ひとみ
4. 構造化のスキル 担当 山内圭子
5. 合意形成のスキル 担当 吉田奈緒美

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：いろいろとプログラムを工夫してくださり、受講者がとても楽しそうなのが印象的でした。

講師の方の人数が多いとやはりエネルギーがあります。受講者もつられて頑張っていたと思います。

☆FAJ会員：

6人でやる窮屈さも感じながら、楽しさも数倍ありました。全員、各々の学びと反省がありました。

＜プログラムを担当したF A J会員からのメッセージ＞

■野口和裕：

私としては、悔いが残る（学びが多かったともいえます）研修でしたが、ただみなさんと、共に研修できた事は、本当に光栄でした。私の業界（I T）のコンサルタントのトムデマルコという人は「素晴らしい仕事の一部を担当することは全部を担当するより素晴らしい」という法則を唱えているのですが、それを研修が終わった後に実感しました。

■小林豊：

研修講師としてまだまだ経験の浅い私としては、先輩方と一緒に準備をし、研修を行うことが出来た事が何よりも貴重な経験となりました。また、講師という視点でファシリテーションを見つめ、実際にファシリテーターをする時とは違う観点を、準備期間や研修当日に感じる事ができ、勇気を出して手を挙げてみてよかったと思っています。

■谷川ひとみ：

今回、6人で一つの企画を担っていくプロセスそのものにファシリテーションの醍醐味を実感させていただいた充実の数カ月でした。自分自身が医療や福祉の業界に身を置く者として、ファシリテーションがとても有効であると感じ勉強を始めましたが、研修受講者にとってとてもよい気付きやきっかけの場であったと思います。研修受講を契機に「もっと深めて行きたい、広めて行きたい」と思う仲間をどれだけ獲得できるかが、“種まきをする人”の課題の一つかなと感じています。

■堀口康朗：

急ぎょの時間変更にも対応ができ、また二人で行う楽しさも味わうことができました。二人のパーツを分けて行い、それぞれの思いを込めた研修がうまくつながった時を感じることができ、これがファシリテーションの醍醐味だと感じることができました。また50名近くの参加者に対して、全体を見ながら個々人に対応することの難しさも体感できたことは、これからのファシリテーション研修の課題だと感じました。

■山内圭子：

伝える立場にまわって初めて「ファシリテーション」が、自分の中にしっかりと収まったような気がしました。数年前「ファシリテーションって何？」という段階でスクエアに通い始め、ここまで広島スクエアに育ててもらえたことに感謝しています。6人でひとつの研修をつくり実施するなんて、他ではあり得ないこと。講師・受講者双方にとって贅沢なファシリテーション体験だったと思います。

■吉田奈緒美：

プログラムデザインの際のファシリテーター担当、会議終了後の議事録作成など、ファシリテーションを実践し、学びながら研修の準備を進めるプロセスが有意義でした。また、「会議のデモンストレーション」が有効だと実感しましたが、これは「6人」いたからこそ、実現できました。医療現場でのファシリテーション活用の重要性和、今後継続していくための仕組みづくりの必要性を感じました。

□主催：国立病院機構沼田病院

□事業名：「ファシリテーション研修」

□参加者数：17名

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：三田地真実、長橋良智（以上東京支部）／ファシリテーター：三田地真実（東京支部）／アシスタント：今井正文、風間英美子、加寿明（以上東京支部）、久保隆、平野剛志（以上関西支部）／見学者：無／プログラム担当理事：長橋良智

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

他職種がチームとして関わる医療にファシリテーションを活用したく考え、ファシリテーション活用支援プログラムの活用を決めた。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：がん緩和ケアチームを始め、医療は他職種の方々のチームとして実施される時代であり、チームをどのようにしたら求められる結果を生み出せるのかが求められている。

②ねらい：がんをはじめ医療に関わる従事者を対象として、立場の異なる職種から編成されるチームを如何に有効に機能させるかを体験しながら学ぶ。

③成果イメージ：

- ・医療の中に実践的に応用できるファシリテーションの考え方と医療の現場に生かす技術を習得する。
- ・具体例をファシリテーションの実際を通じてその有用性を体験する。

④成果（終了後）：

- ・話し合いの場を作る重要性を感じた。カンファレンスに役立てられると思った。
- ・他職種の人達とグループワークする機会を得て、色々な意見を聞くことができた。

□形式： ○ワークショップ ●研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2009年10月17日

- ・ 一言チェックイン
- ・ 演習：話し合いのプロセスを客観的に観察
- ・ レクチャー：ファシリテーション概論
- ・ レクチャー＆ワーク：ファシリテーション各論
- ・ グループワーク：チーム・プロジェクトを始めるための「ことばの共有化から行動プランづくり」
- ・ 振り返りタイム
- ・ 一言チェックアウト

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：

《国立病院機構 沼田病院 がん診療部長 見供 修 氏》

準備する立場として、1日の研修会は初めてで、不安がありましたが、無事に終わることができました。また、わかりやすくお話しくださり、ファシリテーションの基本に触れたわかりやすい研修会となりました。私自身、最初は、参加数あわせの準備する立場での参加でしたが、最後は、知らぬ間に参加者になりきって、終了して、とても勉強になりました。

☆F A J 会員：

《平野 剛志(アシスタント)》

- ・ 準備段階からのチーム作り、プロジェクト運営が、自分には非常に多くの学びとなり、今後へも大いに活かすことができそう。
- ・ 講師が常に軸にしていた「当事者中心」「スキルに頼らない、マインドを重視」といった考え方、そしてその実践は、大変影響を受けた。これはこれからも、いろんな場面で、大切にしたいと思う。

《今井 正文(アシスタント)》

参加メンバーは、皆、医療関係への関心が深く、初回会合の最中には、素人の私が出る幕ではないと思ったが、三田地講師をはじめ、みなさんの温かい雰囲気のおかげで、途中棄権することもなく、とても貴重な体験ができた。ファシリテーションを本業としていない者にとって、このような場は、実践経験を積む貴重な場であると同時に、外部に向けたこのような活動は、ファシリテーションの普及に大きく貢献することが実感できた。

《風間英美子 (アシスタント)》

参加者の人数に対してアシスタントの数がもしかしたら多かったかもしれない。そのため動き方が難しかった。動き方や関与の程度などをもう少し事前に打ち合わせておいたほうが良かったかもしれない。全体として、今回はアシスタントとして参加させていただいて、大変勉強になりました。知恵が集まるというのはこういうことなんだなあと実感しました。

《久保 隆 (アシスタント)》

当日参加の沼田病院及び沼田市の医療関係者から多くの刺激を受けることができた。チームに求められるものに「愛」「献身」といったことを挙げるグループが出てくるなど皆さんの真摯さに頭が下がる思いであった。特に、このような機会に、院長が挨拶だけでなく、プログラムを最後まで受講されたことには驚きを感じた。

《加寿 明 (アシスタント)》

- ・ 地元というよりも、普遍的な医療の世界の構造と課題とファシリテーションの可能性についての理解と意識が（個人的に）高まったと思います。
- ・ 「ファシリテーション活用の端緒とする」「地域を変えよう」・・・この辺は時間が掛かりますが、着実に一步一步進めて行きたいですし、今回はいいきっかけになったと思います。

＜プログラムを担当したF A J会員からのメッセージ＞

《三田地 真実(講師・コーディネーター)》

「チームとは何か？」これが私が最初からずっと心に浮かんでいた「問い」である。研修当日を終えたときに、「我々は本当にチームだったのか？」この問いが浮かんできた。

研修の目的そのものが「チーム医療を活性化するためのファシリテーション」ということもあり、今回の活用プログラムへの参加は、私にとってもこの「チーム」ということばが指し示す本当の意味を改めて考え直すこととなった。

今回、私自身も初めてこの活用支援プログラムを経験している。医療現場におけるファシリテーションの研修は過去に経験しており、その際に複数のメンバーで関わったこともある。しかし、今回のように基本的には全く見知らぬメンバーとチームとなりながら、研修当日を迎えるというのは正直戸惑う点も多いプロセスであった。

□主催：財団法人アカデミー文京

□事業名：文京区文京アカデミー公開講座「組織が変わる！ファシリテーション入門」

□参加者数：68名（17名×4回）

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：佐藤成臣（東京支部）／ファシリテーター：佐藤成臣（東京支部）／アシスタント：富士慎一郎、小寺康史、小藤輝正、佐藤康広、平野勝義、増田みつ枝（以上東京支部）／見学者：鈴木まり子、中野茂／プログラム担当理事：中野茂

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

2009年3月、FAJ会長の加留部氏が文京区民そして区役所職員にワークショップでファシリテーションの意味や醍醐味を伝えたことがきっかけで、区民や区役所職員に真剣にファシリテーションの技術を学びたいという気持ちが湧きあがりました。その気持ちに答え、講座を企画しました。その際、せっかくなので、ファシ活を利用し普段なかなか出会えない「街づくり」の現場のファシリテーションをFAJの会員にも体験してもらおうとして、アカデミー文京と交渉し、実現できました。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：文京区は人口流動率が高い反面、長くそこに住む住民もいます。このような複雑構造のなかでの地域コミュニケーションの形成に効果的な方法を探していました。そこでファシリテーションの技術に白羽の矢が立ちました。

②ねらい：ファシリテーションの基本的技術である「聞く技術」「書く技術」「まとめる技術」と「場作り」そしてファシリテーターの体験をしてもらうことで「すぐ現場で使える力」というものを身につけていただくことを狙いました。

③成果イメージ：ファシリテーションに興味を持ち、そして自主的に継続的活動を続けることや、地域の問題に敏感になる、様々な立場を尊重する技術を得たことによって地域課題を解決できる人材に育っていただくや、FAJの活動にも興味を持ってもらうことでした。

④成果（終了後）：早速自主団体「文の京ファシリテーション工房」という社会教育団体を立ち上げ、自主勉強会を行うとともに、文京学院大学の「ジョブサポーター事業」（就活支援）への参加、アカデミーよりの事業受託などがありました。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：

実施日時 2009年11月4日・11日・18日・25日各回19:00～21:00（4回）

第1回：場作りの技術 ～アイスブレイク、～無人島ゲーム

第2回：聞く技術 ～傾聴ゲーム～

第3回：書く技術 ～ファシリテーショングラフィック～

第4回：まとめる技術、デモンストレーション ～ファシリテーション会議の実践～

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：

どんどん上手になっていく様が手に取るようにわかる、終わったあとの笑顔が素晴らしい、そして「もっと学びたい」という意欲、そしてそれはFAJ東京支部イベントへ非会員としての参加という形で現れました。いみじくも同時期よりはじまった文京区の基本構想にこのファシリテーションの技術が必要となりました。学んだメンバーがいよいよ地域計画の現場に出ます。（佐藤 成臣）

私たちも今日からまちのファシリテーターです

第1回目：参加者の感想

アイスブレイクのおかげで早い段階でみなさんと打ち解け、すんなり入っていくことができました。無人島ゲームでは飛行機の墜落事例をグループで検討しましたが、話し合いの基本を学ぶ良い機会になりました。特に、自分一人の意見より、みんなで考え、他者の意見を聞くほうが、多くの気づきとより良い案が得られて素晴らしい結果がもたらされることを学び大変有意義でした。（餐場さん）



第2回目：参加者の感想

相手との位置関係による心理は「なるほど!」と思いました。聞くこと以前の空間管理「理性の空間」「情緒の空間」「恐怖の空間」。このことを意識すればその場に応じて、適切な場づくりができるのだとわかりました。また、「その人のキャッチコピーを他の人が作る」というワークでは、
①どれだけその人らしさを引き出す質問ができるかという「質問の質」が大事であるということ、
②聞き出したことからキャッチコピーを作るという「感じる力」が必要であるということ、③作ったキャッチコピーをその人が納得していることも大切であること、
④それらを決められた時間内にまとめる時間管理の難しさ。短いワークながらたくさんことを学びました。（田中さん）



第3回目：参加者の感想

壁一面に模造紙が貼られていて、「習うより慣れ。とにかく書く」という実習でした。他の人が書いたものが見られたことで、いろいろな書き方があり、そのどれもがそれでいい、ということに気付かされました。実際に討論しているのを書く練習では、話のスピードや内容についていけず、要約して見やすいように書くというのは、とても難しいことだと感じましたが、貴重な経験になりました。機会をみつけて、また、書いてみたいと思います。（石野さん）



第4回目：参加者の感想

これまでの総まとめとして、ファシリテーション会議の実践練習を行いました。ファシリテーターを経験した感想としては「聞く・見ると、やるとは大違い!」年齢も経験も幅広い方々が集まった会議を運営することの難しさを身をもって経験できました。まずはしっかりと参加者の話を聴く力と的確に質問する力が大切であることを学んだ貴重な体験でした。（角倉さん）



スタッフのふりかえり&メッセージ

佐藤 康広／事前の打ち合わせからとても熱い議論でした。顔合わせから始まり、メールのやり取りと。詰めに詰めた企画であったため、その成果が参加者の表情に出ていたと思います。全4回どの内容も充実感に満ちた表情に見えました。また講座で終結するのではなく、ファシリテーションをさらに学びたい参加者を募り、そのメンバーで団体登録をするまでに至りました。

現在その団体で文京区内にある大学の就職活動支援を行っています。就職面接時にグループディスカッションを行う企業が多く、そのグループディスカッションの場でファシリテーションのスキルが活きるのです。講座参加者は学ぶ側から教える側へ。みなさんととても分かりやすく伝えていきます。学びというのはアウトプットすることでさらに深い理解が得られると感じさせられました。

今後も文京区内でのファシリテーション活動をさらに広げるために精進してまいります。

佐藤 成臣／「こんなにも興味のある人が多いのか」、正直驚きました。来場者の多様な世代や職業と、従来のアカデミーにない受講者層で実施した講座でもいつもとは違ったイメージがありました。卒業後には力を試す場や、新しいメンバー、自主勉強会と流れができました。この良い流れを今後も大切に地域に根付かせ、地域を耕して行きたいと考えます

□主催：東京工業大学・神奈川県自治総合研究センター

□事業名：討議型意識調査（デリバレイティブ・ポール：DP）

□参加者数：152名

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：徳田太郎／ファシリテーター：池田和秀、小笠原啓一、神山裕臣、藤原伸介、八木龍平（以上東京支部）、百野あけみ（中部支部）、鈴木智子（仙台サロン）／アシスタント：無／見学者：無／プログラム担当理事：徳田太郎

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

討議型意識調査（Deliberative Polling、以下DP）の特徴は、アンケートと討議イベント（少人数による意見交換＋専門家との質疑応答）を組み合わせることで、十分な情報と議論を経た上での市民の意見や考えを知ることができる点にある。討議イベントにおいては、訓練されたモデレーター（ファシリテーター）が多数必要であるが、日本で初めての開催となるため、どのようにモデレーターを確保するかが課題となっていた。そのような折、日本ファシリテーション協会の存在を知り、「ファシリテーション活用支援プログラム」の適用を依頼することとなった。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：これまで以上に県民の意思に基づいた政策の実現を図ることが求められている中、諸外国で、偏りがなく熟慮された市民の意見を把握することができるとされる「討議型意識調査」について、その有効性や実施上の課題を調査・研究する。

②ねらい：参加者の方々に、道州制についてじっくり考え、議論していただき、さらに意見を異にする専門家と質疑応答を行ったうえで、最後にたどり着いた意見を教えていただく。

③成果イメージ：道州制について、参加者の熟慮された意見や考えを知ることができる。

④成果（終了後）：<http://kanagawadp.org/confluence/pages/viewpage.action?pageId=23134214> に掲載の通り、DPとして一定の成果を収めることができた。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2009年12月5日

次ページに詳細を記す。

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：「参加者の討議イベントに対する評価は良好でした。78%の参加者は、グループ討議が役に立ったと回答しています。他の参加者との出会いや会話が役に立ったと回答する者は66%に上り、76%は、討議イベント全体を通して役に立ったと評価しています。討議の進行役が、全員が討議に参加できるよう努力していたと評価するものは76%に上り、66%はグループ討議で話し合うべき内容は討議できたと評価しています。86%は他の参加者の意見が役に立ったと評価している。進行役が進行役自身の意見を示唆する傾向はなかったとするものは77%で、さらに、立場の違った見解にもよい見解があるとわかったとするものは、78%に上っています。」（上記報告書より抜粋）

☆FAJ会員：ファシリテーター同士の意見交換によって、場のづくり方や進行の仕方などを学ぶことができ、実り多き体験となったという声が多かった。また、DPに関する自主学習会を企画したり、DPを参考にワークショップをデザインしたりといった活動へとつながっていった。

<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

■討議イベント前日

・11:30～12:30 東京工業大学にて、「ファシリテーション活用支援プログラム」参加メンバーによる「キックオフ・ミーティング」を実施。参加メンバーの居住地が広範にわたっており（北は仙台から、南は名古屋まで）、事前に全員が集まって打ち合わせを行うことはできなかったため、それまではメールベースで自己紹介やプロジェクトにかかる思い、疑問点などを共有してきたが、このキックオフ・ミーティングが文字通りの初顔合わせとなった。



・13:00～18:00 東京工業大学・坂野研究室にて、DP主催者による「モデレーター・トレーニング」。ジェームス・フィッシュキン（James S. Fishkin）スタンフォード大学教授、ロバート・ラスキン（Robert C. Luskin）テキサス大学准教授ら、DPの生みの親から、直接ご指導いただく。ロールプレイング体験が不安解消に非常に役だったとの声あり。

・19:00～21:00 近くの居酒屋で「がんばろう会」。

■討議イベント当日

・9:00～ 神奈川県自治総合研究センターに集合し、主催者と共に簡単な打ち合わせ。モデレーターはすぐに各会場に移動し、場づくりに取りかかる。

・9:30～10:00 参加者がホールに集まり、事前アンケートの実施とオリエンテーションを行う。

・10:05～11:05 1回目のグループ討議。12のグループのうち、7グループのモデレーターをFAJ会員が務める。テーマは「道州制で変わる？地域の教育」。初めのうちは緊張からかあまり発言のなかったグループも、モデレーターの間づくりによって徐々に活性化してくる。自由な意見交換の後、専門家（パネリスト）に対する質問を作成する。



・11:25～12:50 1回目の全体会議。各グループから、専門家（パネリスト）に対して質問を行う。司会者は曾根泰教・慶應義塾大学大学院教授、パネリストは荒田英知・PHP総合研究所主席研究員、沼尾波子・日本大学教授、村上祐介・日本女子大学准教授。

・12:50～13:40 昼食休憩。モデレーターは控室で昼食を共にし、情報の共有と意見交換を行う。

・13:40～14:40 2回目のグループ討議。テーマは「道州制で変わる？地域の雇用と産業」。流れがつかめたため、午前中に比べると、どのグループもリラックスした雰囲気での議論が進む。モデレーターの仕事は、ここまでで終了。

・15:00～16:30 2回目の全体会議。パネリストは荒田・沼尾両氏と渡邊博頭・労働政策研究・研修機構副統括研究員。

・16:30～17:00 引き続きホールにて事後アンケートの実施。最後に主催者として、松沢成文・神奈川県知事が挨拶。

・18:00～20:00 近くの居酒屋で「おつかれさま会」。長かった2日間が終了。



※当日の動画や写真を、<http://kanagawadp.org/> で見るができます。

□主催：慶應大学・神奈川県藤沢市

□事業名：討議型意識調査（デリバレイティブ・ポール：DP）

□参加者数：258名

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：徳田太郎、百野あけみ（中部支部）／ファシリテーター：梅谷秀治、小笠原啓一、神山裕臣、高山巧、野島勇、樋渡由希恵、三宅立晃、吉村春美（以上東京支部）、百野あけみ（中部支部）、渡辺達美（仙台サロン）／アシスタント：無／見学者：有（5名）／プログラム担当理事：徳田太郎

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

東京工業大学・神奈川県自治総合研究センターの討議型意識調査（Deliberative Polling、以下DP）と同様、どのようにモデレーター（ファシリテーター）を確保するかが課題となっていたが、上記DPの際に日本ファシリテーション協会の会員が多数モデレーターを担当していたことから、その場でコーディネーターに対し「ファシリテーション活用支援プログラム」の適用を依頼した。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：社会・経済情勢等の急激な変化に対応し、「市民の目線に立った市民経営」の展開と「一生住み続けたいまち 湘南藤沢」の実現を図るため、新たな総合計画を策定する。

②ねらい：上記新総合計画を策定するにあたって、「幅広い市民参画と市民による市民のための計画策定を実現」という目標を掲げた。この目標を達成するためのひとつとして、DPを通じて、市の施策や地域の活動に興味を持っていてもなかなか参加する機会などがない市民に、新総合計画の策定に係る世論調査への参画と意見をいただく。

③成果イメージ：藤沢市民の「藤沢のいま」「藤沢のこれから」に対する意識を幅広く抽出することができる。

④成果（終了後）：DPとして一定の成果を収めることができ、2010年8月に第2回のDPを開催することが決定した。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2010年1月30日

次ページに詳細を記す。

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：「参加者数の確定がイベント当日になるなど、不確定要素が非常に多い中で、無事にイベントを終了できたことは、日本ファシリテーション協会から多数ご参加いただいたモデレーターの皆さんのおかげと感謝しております。」（主催者側からのメールより抜粋）

☆FAJ会員：主催者が2つの団体となっているためか、準備や運営において、情報伝達や連携が不十分で、しばしば混乱が見られるなど、ファシリテーション以外の部分で神経を使うことが多かったが、これも現場の醍醐味であることができるかもしれない。「モデレーターが交代しても、討議が何ら変わりなく進むことが理想」というDPのファシリテーションからは学ぶことが多く、人と人との繋がりを築いていく上でファシリテーションが大きく貢献するということについて、改めて実感を深めた。また見学者からも「大変に勉強になった」との声が寄せられた。

<プログラムを担当したFAJ会員からのメッセージ>

■討議イベント前日

- ・11:30～12:30 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにて、「ファシリテーション活用支援プログラム」参加メンバーによる「キックオフ・ミーティング」を実施。神奈川DPの際と同様、参加メンバーの居住地が広範にわたっており（北は仙台から、南は名古屋まで）、事前に全員が集まって打ち合わせを行うことはできなかったため、それまではメールベースで自己紹介やプロジェクトにかける思い、疑問点などを共有してきたが、このキックオフ・ミーティングが文字通りの初顔合わせとなった。
- ・13:00～18:00 DP主催者による「モデレーター・トレーニング」。ロバート・ラスキン（Robert C. Luskin）テキサス大学准教授、曾根泰教・慶應義塾大学大学院教授らのレクチャーとロールプレイング体験。神奈川DPに比べ参加者が多く、それに伴いグループ数（＝モデレーター数）も多くなっており、トレーニングにも力が入る。
- ・19:00～21:00 近くの居酒屋で「がんばろう会」。



■討議イベント当日

- ・8:30～ 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに集合し、主催者と共に簡単な打ち合わせ。モデレーターはすぐに各会場に移動し、場づくりに取りかかるが、大学の教室ということもあり、机や椅子の数が参加者数に比して多く、準備に時間がかかる。
- ・9:20～9:50 参加者がホールに集まり、主催者として海老根靖典・藤沢市長が挨拶。引き続き、オリエンテーションと事前アンケートを行う。
- ・10:00～11:30 1回目のグループ討議。『藤沢のいま』を考え、打つべき手について議論する』をテーマに、『藤沢の課題』は何か』『藤沢の良さ』は何か』といった論点について討議する。自由な意見交換の後、専門家（パネリスト）に対する質問を作成する。
- ・11:40～12:50 1回目の全体討論。各グループから、専門家（パネリスト）に対して質問を行う。司会者は曾根泰教・慶應義塾大学大学院教授、パネリストは沼尾波子・日本大学教授、田中美乃里・特定非営利活動法人地域魅力理事長、菅孝能・藤沢市景観審議会会長。
- ・12:50～13:45 昼食休憩。モデレーターは控室で昼食を共にし、情報の共有と意見交換を行う。
- ・13:45～15:15 2回目のグループ討議。『藤沢のこれから』を考え、討論する』をテーマに、4つの論点について意見交換し、専門家（パネリスト）に対する質問を作成する。モデレーターの仕事は、ここまでで終了。
- ・15:30～17:00 2回目の全体討論。パネリストは沼尾氏の他、増田寛也・元総務大臣、福島浩彦・全我孫子市長。
- ・17:00～17:30 引き続きホールにて事後アンケートの実施。
- ・18:00～20:00 近くの居酒屋で「おつかれさま会」。長かった2日間が終了。

■後日談

- ・「ファシリテーション活用支援プログラム」として、日本で初めてとなる神奈川 DP と、市町村レベルでは初めてとなる藤沢 DP の 2 つに関わるという貴重な経験を得たことから、2 月 20 日に有志が集い、坂野達郎・東京工業大学大学院准教授の元を訪れ、学習会を開催した。

□主催：財団法人千葉市教育振興財団 千葉市生涯学習センター

□事業名：「地域活動スタートアップ講座」

□参加者数：約 80 名（21 名×4 回＝81 名）

□プログラムを担当した F A J 会員

コーディネーター・ファシリテーター：二宮久美（中部支部）／アシスタント：五十嵐信博、小野静子（以上東京支部）／見学者：1 回目遠藤理事、2 回目無、3 回目蟻川順子・徳永武史、4 回目梅谷秀治・佐藤成臣／プログラム担当理事：遠藤智栄

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

以前からファシリテーションの社会教育、生涯学習の現場での有用性を感じていたので、今回の講座もワークショップ形式での実施を考えていました。講師の選定にあたっては、地域活動への理解があり、ワークショップ形式で講義を進めていただけること、また私自身講座のゴールの設定で迷っていたところがあったので、打ち合わせを重ねていただける方を希望していました。講師には、大学の教授などを考えたこともありましたが、知識面では問題がなくても、ワークショップの経験が豊富ではない場合もありますので、こちらの要望や予算面も含め、ホームページで本プログラムの存在を知りご相談をさせていただいた次第です。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：地域活動で一番悩まれるのは、活動資金の事や、人間関係、集客（スタッフ募集）などです。一人で出来るのか不安だったり、ボランティアは大変だという思いが、活動に対する参加を躊躇させています。

②ねらい：地域活動をしたいと思っている方に向けて、躊躇する原因の排除や、やる気が起きる情報を提供し、はじめの一步を踏み出せるようにする。そのためのプログラムを、ファシリテーションスキルを活用して組み立てる。

③成果イメージ：地域活動をはじめたい、と思わせ、具体的な行動を起こさせる。

④成果（終了後）：参加者同士で集まり、具体的に複数の活動（または相談）が始まっている。
ファシリテーション協会に入りたい（女性）。

□形式： ●ワークショップ ○研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2010 年 2 月 16 日・23 日、3 月 2 日・9 日（4 回）

第 1 回：人と地域と関わる自分へ ～コミュニケーションに役立つアイスブレイク～

第 2 回：チームで活動してみよう！ 資源活用ゲーム&リーダーシップ

第 3 回：地域活動について考える。具体化へ向けての資金集め、人集めヒント

第 4 回：アイデア発表会・プレゼンテーション～自分がやりたい活動を発表～

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：大変良いマッチングをしていただきました。実際に地域活動を実践されている講師（ファシリテーター）に来て頂いたため、参加者（地域活動等の実践者）の持つ課題を良く理解されており、企画の段階から様々な助言等を頂くことができました。また、講座の中では実体験を基にお話いただいたので、参加者にとっても強いメッセージとして伝わったように感じます。

講座の成果としても、参加者の半数以上が新しい活動を計画しており、参加者間のネットワークも広がっていました。2 か月たった今、計画が具体化したという連絡が当時の参加者から届いています。

講師のコーディネートも単に紹介して終わりではなく、初回到当理事の方も来ていただき協会全体での支援体制を感じました。

なお見学者の方によって、部屋の後方で見学されているだけの方もいれば、ファシリテーターとして入りたいという要望のある方がいらっしゃるようでした。今回は「見学」とお聞きしていたので、参加者（受講生）に対してご紹介しなかったのですが、関わり方によってはご紹介する必要があるように感じました。ただその際は、事前にご相談の上、お知らせいただくと安心して見学の方をお迎えすることができます。

☆F A J 会員：行政と民間で設置するプラットフォームという、府の地域力再生活動に関わっている関係で、行政目線、地域団体目線で学んだ知識、そして、ファシリテーション協会で学んだ知識を生かした講座が出来たと実感しています。

＜プログラムを担当したF A J会員からのメッセージ＞

「メインF ニ宮」

行政、企業、地域活動団体、複数の目線から得たNPO等の知識を生かし、ゲームやアイスブレイクなど、楽しんで、真面目に学べる講座作りを行い、それを参加者に評価頂いた事をとても嬉しく思います。一週間間隔で行われる4回連続講座であった為、アシスタントとは、知らない知識をお互い共有しあうより、お互いのスキルを生かした役割分担をする方が、内容をまとめるスピードの上で重要と判断しました。たくさんの方から多くの協力に感謝です。



「アシスタント五十嵐」

プロジェクトが住まいのすぐ近所での開催だったので、アシスタントに手を挙げました。初回前半での参加者同士のチームビルディングと、各回オープニングの前説風アイスブレイクを担当しました。主Fが名古屋在住ということでミーティングに制約があり、どうしてもイメージ共有には支障が出ました。しかし、メンバーの力を出し合って、結果としてクライアントに喜んでいただけるものになったと思います。私も地元のお役に立ててよかったと思っています。

「アシスタントおの」

今回、「地域活動」に関わるファシ活に参加して勉強になった事は、「異なった年代の方が一丸となり何かを形にするとする事は、とてもエネルギーの要する事」ということを実感できた事です。“地域活動”の最終目的は同じでも、共感してくれる人がいなければ、活動範囲は限られてしまい、情熱だけでは計画が頓挫してしまうと言う事が分かりました。たくさんの方々の思いを身近に感じる事ができ、とても良い経験で学びになりました。

□主催：社会福祉法人川崎市社会福祉協議会地域包括支援センター調整課

□事業名：ケアマネジメントリーダー事業名簿登録者向け研修「ファシリテーションとリーダーシップ」

□参加者数：78名

□プログラムを担当したFAJ会員

コーディネーター：五十嵐信博（東京支部）／ファシリテーター：五十嵐信博（東京支部）／アシスタント：阿部ひとみ・佐藤康広（以上東京支部）／見学者：豊田倫枝・副島眞由美（以上東京支部）／プログラム担当理事：鈴木まり子

□ファシ活を活用しようと思ったきっかけや理由＜主催・依頼者＞

勉強会に参加したとき、協会の存在を知り、WEBでプログラムを知り活用したいと思った。

□事業の背景①とねらい②、成果イメージ③、成果④

①背景：介護支援専門員は会議進行を行う機会が多い。また多くのサービス事業所とサービス利用者（クライアント）との間にたち、調整役として重要な役割をもつため、ファシリテーションが有効である。

②ねらい：ファシリテーターとはどのように行うものか基礎から学ぶ機会としたい。そのうえで、各区地域や事業所内でリーダーとして研修の協力や後輩の育成ができるような人材をふやすことを目指したい。

③成果イメージ：介護支援専門員が業務、会議進行や、後輩の研修においてファシリテーションの技能を生かし、リーダーとして活動できるようになること

④成果（終了後）：参加者が、ファシリテーションの有効性を実感し、現場で活用しようという意識が高まった。

□形式： ●ワークショップ ●研修 ○その他（ ）

□内容・進行：実施日時 2010年3月16日 13：30～16：30

ケアマネジャーが日々求められているリーダーシップと関係づけながら、話し合いの場でのファシリテーションのエッセンスの流れに沿って解説し、いくつかの体験をしていただきました。

短時間なので、皆さんがこれから場数を踏んでいくための、自分なりの「指針」をつかんでいただくことをゴールとしました。

（アジェンダ）

支援型リーダーの時代

○そもそもリーダーシップとは○そもそもファシリテーションとは○そもそもよい「会議」とは効果的な話し合いの進め方

1. 共有の段階 2. 発散の段階 3. 収束の段階 4. 統合の段階 まとめ・ふりかえり島型 @5～6人

□ふりかえり＜ファシ活を活用・実践し良かった点と改善点など＞

☆主催者：参加者に、参加型でリーダーシップとファシリテーションを伝えることができて良かった。

協会から報酬の提示はないので、この予算で良いのか迷うところはあった。

☆F A J 会員：

五十嵐信博

ご提示いただいたテーマ（告知済み）が大きいこと、開催までの時間が約 2 カ月しかないこと、参加人数が増えて 100 人近くになった（最終的には 78 人）こと等の事情もあり、当初見込みよりもエネルギーを要しました。プログラムも、主催者様との話し合いを経て、アシスタントと企画を進めるうち、結局ほとんどゼロベースからの構築となりました。

幸い、参加者のアンケートではかなりご好評をいただくことができました。一安心するとともに、介護の世界でお役に立てたことをうれしく思います。以前、父のことで介護関係の皆さまにはお世話になったからです。

今回の評価は、アシスタントの阿部ひとみさん・佐藤康広さんの貢献によるものです。おふたりは介護業界に身を置くばかりでなく、研修・セミナーにも詳しいため、3 回にわたる事前打合せでの知恵出し、当日のサポートでの力出しと、本当にすばらしい協力をしてくださいました。

さて、現行のファシ活基準におけるアシスタントのイメージは、当日の軽微な補助作業程度です。しかし実際には、ボランティアベースでの、基準を相当上回る関与のケースがほとんどではないでしょうか。これに何かもう少し報いる方法があればよいと思います。

<プログラムを担当したF A J会員からのメッセージ>

佐藤康広（アシスタント）

まずは、知人のケアマネージャーにどのような悩みがあつて、どのような場面でファシリテーションが求められるのかをリサーチするところから始めました。

私を含めアシスト 2 人が介護関係の仕事だったので、介護分野の情報を得ることができました。その得られた情報と五十嵐さんのファシリテーションをうまく組み合わせ、セミナーの構成を行ったのです。結果とても満足度の高いアンケート結果が返ってきました。やはり、対象者が何を求めているのかを知ることが重要ですね。

阿部ひとみ（アシスタント）

テーマの「リーダーシップ」「ファシリテーション」を組み合わせるのは、どちらにも立ち位置が絞り切れなかった感があるが、うまく融合させられたと思う。会議の進行役としてのリーダーシップというとらえ方で、会議進行に中心を置いても一つかな?!とも感じました。全体として臨機応変に GOOD な場づくりにできたのではないのでしょうか。人の話し方や動き、参加者＝会場の雰囲気と進め方の関連（こちらが少々戸惑っていると参加者も顔が曇る）が肌で感じ、チョー緊張しました。がとても有意義でした。ファシリテーター自身があんなに備品を持ち込んだことにもビックリ！でした。アシスタントを経験してとっても勉強になりました。



FAJのミッション

ファシリテーションの普及を通じて、ビジネス分野においては、生産性・モチベーション・リーダーシップ力を向上させ、社会的な分野では、市民活動・地域経営・国際交流の質を高め、教育の分野では、多面的な視点を持つ人材を育成していくことをめざしています。

ビギナーからプロフェッショナルまで、ビジネス・まちづくり・NPO・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展をめざして、幅広い活動を展開していきます。

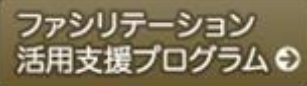
中期ビジョン 2012

- ・ファシリテーションのマインドとスキルが社会に根づき、日常の対話の中で自然に使われている
- ・ファシリテーションを学び、育て、活かせる場を日々耕し、多様な人や組織がつながっている
- ・人と人が響きあう社会を創り出すために、多くのファシリテーターが当事者として現場に立ち向かっている
- ・われわれならではのファシリテーションの知恵を世界に発信し、新しい地平を切り拓いている

● ファシリテーション活用支援プログラムのお申し込み・お問い合わせ ●

FAJ ホームページからお願いいたします。

- 1、<https://www.faj.or.jp/> のバナーをクリック →



- 2、または、直接「ファシリテーション活用支援プログラムのご紹介」ページからどうぞ
https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=112

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会
ファシリテーション活用支援プログラム 2009年度実施報告

発行年月：2010年5月
発行者：特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会（FAJ）
（151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-12-8 ル・グラン原宿）
ご連絡は、<https://www.faj.or.jp/>の「問い合わせ」ページから、
もしくはFAJ事務局アドレス secre@faj.or.jp までお願いいたします。